

除夜の鐘(じょやのかね)

平成30年12月第4週放送

本年もまもなく^{おおみそか}大晦日を迎えます。一年の最後の一日のことを、^{ふる}旧い年を^{のぞ}除く日という意味から^{じょじつ}除日ともいいます。この日の夜を特に^{じょや}除夜といいますので、大晦日の夜に百八回撞く鐘を除夜の鐘というのです。

^{ぼんしょう}梵鐘の有る多くのお寺では、夜遅く十時頃を過ぎてからおもむろに^つ撞きはじめ、新年を迎えての^{いっせい}一声を百八回目とする所が多いようです。お参りに来た方も撞く事が出来るお寺では規則正しく年越しに合わせて撞くのが難しくなるので、もっと早い時間から、中には昼間の十二時を過ぎた頃から撞かせてくれるお寺も有るそうです。

鐘を撞く事が一般の人々にも年中行事の一つとして定着し、親しみを持って受け入れられて来た事は、お釈迦様の、み教えの一端に触れる事の出来る良いご縁が広まって来たともいえるでしょう。

除夜の鐘は百八回、^{ぼんのう}煩惱の数ということも多くの人が知る所です。普段は頭の中に浮かぶことも少ない煩惱という言葉に、はっとして我が身を振り返り、自分の心の中にそれが有る事を確かめ、取り除きたいという思いを抱きます。煩惱を除きたい夜、というイメージを持たれる方もおられることでしょう。

そこにお釈迦様のお悟りの道の入り口が有る、といたら言い過ぎでしょうか。年中行事の一つとして私たちの生活の一部に溶け込んでいるかの様ですが、もしかしたら遠い昔から、教えを説いてきた人達が、迷いを離れて安らぎの^{ひおく}日送りに導く為につくり上げたものなのかも知れません。

除夜の鐘の音を、自分自身が歩んできたこの一年間の行いを^{かえり}省みて聴いたならば、今年はいろいろなご縁に生かされて有り難かった一年間だったと、心の奥底に^し沁

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

み入る^{ねいろ}音色と感^んじることでしょう。そして新年を迎えたならば、次の一年間はこれまでよりももっと心安らかでありたいと願いを起こすでしょう。

その繰^くり返しが知らず知らずのうちに、迷いを離れた安らぎの道にいざなっているのです。仏さまとのご縁に感謝しつつ、良いお年をお迎え下さい。

— 終 —